

上海の認知症介護について

各区で最低50床
スタッフに賞与も

国際アルツハイマー病
協会によると、認知症者
数は2016年時点で、
世界に約4400万人。
そのうち、中国の認知症
者は約1350万人と約
4分の1を占めていま
す。

3・1以上が求められる
ことになりました。

また、受入施設には設

置費用として1床につき
2万元、運営費として1
年目に1床当たり500
0元、2年目3000元、
3年目2000元の補助
金が市政府より支給され
ます。さらに認知症ケア
スタッフに対しても別途
賞与（前年最低賃金50%
基準）を支給すること
になりました。

このような背景を受け
今年3月30日、上海市民
政局と財政局は、「認知
症ケアベッド設置の業務
案（試行案）」を発表、
年内に各区最低50床、全
市で1000床の認知症
ベッドの導入を決定しま
した。受入施設では最低
1名のケアプランナーを
配置し、人員配置基準は

これまで中国では、認
知症の診断方法として、
MRIやCT、脳波、血
液検査などの西洋医学
と、脈診や舌診、漢方等
の中医学による両方の診
断を実施する事が一般的
で、手前のMMSEや長

認知症ベッドに助成金

谷川式などの
スクリーニン
グを実施する
ことはあまり
一般的ではあ
りません。そ
のため、認知
症に対する意
識もさほど高
くなく、早期
発見が出来る
体制ではなか
ったことが分
かります。

当然、軽度認知障害
（MCI）という概念も
浸透しておらず、また、
認知症者の介護が困難な
要因の1つでもあるBP
SDもほとんど知られて
いません。様々な事例に
対する考え方も非常に楽
観的であり、それに対す
る検証もほぼ行っていない
のが現状です。



中国の 高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経
理
稲田 義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携
わって7年、介護職員養成学校の立
ち上げや日本式介護研修の実施、ま
た、日系介護企業を集めての上海シ
ニア産業フェアの主催等、上海シ
ニア産業全てを総指揮。

今後の課題として、M
CI状態のうちに適切な
治療を行い、認知症の進
行を予防し、認知症者に
対しては、多くの事例か
ら学び、適切なケアが行
えるよう日々検証しなが
ら関わっていくことが何
よりも重要です。